

目 次

はしがき v

序 章 イン트로ダクション

—英語史と英語教育のインターフェイス—

..... 山本史恭子・片見彰夫・川端朋広	1
1. 英語史と英語教育	1
2. 英語史と日本における英語教育のこれまで	2
2.1. 岸田隆之・早坂信・奥村直史	2
2.2. 寺澤盾	2
2.3. 堀田隆一	3
2.4. 最近の流れ	3
2.5. 海外編 N. Schmitt and R. Marsden	4
3. 日本の英語教育政策と英語史の役割	5
3.1. 英語史と初等英語教育	6
3.2. 英語史と中等英語教育	6
3.3. 英語史と高等英語教育	8
4. 英語史の実用性の課題	8
5. 内容概説	9

第 I 部 古英語 (450-1100)

第 1 章 古英語

..... 寺澤 盾	12
1. 英語のはじまり	12
2. 古英語の語彙	14
2.1. 数を表す語	14
2.2. 四季を表す語	16
2.3. 親族名称	17

2.4. 人を表す語	19
3. 古英語の文法	19
3.1. 古英語の人称代名詞	19
ほっと一息 Tea Time (古英語編 1) 二人称複数代名詞の復活?	21
3.2. 古英語の名詞	23
ほっと一息 Tea Time (古英語編 2) 不規則複数	24
3.3. 古英語の動詞	25
4. おわりに	29

第2章 *Beowulf* (ベーオウルフ)

.....	鈴木敬了	30
1. はじめに		30
2. あらすじ		31
ほっと一息 Tea Time (古英語編 1) 人名の由来		33
3. 古英語詩の特徴		34
4. 作品読解		36
5. おわりに		50
ほっと一息 Tea Time (古英語編 2)		
sheep や fish は群れをなすから単複同形なのか		51
Classroom Activity ㉠		52
Classroom Activity ㉡		53

第II部 中英語 (1100-1500)

第3章 中英語

.....	片見彰夫	56
1. はじめに		56
2. ノルマン征服 (The Norman Conquest)		57
3. 多様な方言と標準化		59
4. カクストンと活版印刷		64
5. 借入語の流入		65
6. 語尾の水平化と、語順の確立		69
6.1. 名詞		69

6.2. 動詞	71
6.2.1. 動詞の過去形	71
6.2.2. 不規則変化動詞の由来	72
6.3. 語順の確立	72
6.4. 形容詞	73
6.5. 副詞	74
7. 物語形式 (narratology) と英語学の観点から探る中英語	74
7.1. Thomas Malory のアーサー王物語	74
7.2. 神秘主義者 Julian of Norwich のキリスト教散文	75
8. おわりに	78
ほっと一息 Tea Time (中英語編)	79

第4章 Chaucer の言語と作品

..... 大野英志	83
1. はじめに	83
2. 語形	84
3. 語彙	85
3.1. 意味変化	85
3.2. 借用語	86
4. 統語法	90
4.1. 二人称代名詞	90
4.2. 独立不定詞	91
4.3. 非人称構文	94
4.3.1. 「夢」の動詞	94
4.3.2. think	97
4.4. 法助動詞	100
5. 方言	102
6. おわりに	104
ほっと一息 Tea Time (中英語編)	104
Classroom Activity ①	106
Classroom Activity ②	107

第 III 部 初期近代英語 (1500–1700)

第 5 章 初期近代英語

.....	家入葉子	110
1. はじめに		110
2. 語彙と綴り字, そして発音		110
3. 人称代名詞と関係代名詞		113
ほっと一息 Tea Time (初期近代英語編 1)		
名詞の単数形複数形—sheep と cornflakes		115
ほっと一息 Tea Time (初期近代英語編 2) his 属格		118
4. 動詞およびその周辺		118
5. 形容詞と副詞, その他		126
6. おわりに		132

第 6 章 Shakespeare の英語

.....	福元広二	133
1. はじめに		133
2. 時代背景について		134
3. Shakespeare の作品		134
4. Shakespeare の詩形		135
4.1. 脚韻付き韻文 (rhymed verse)		136
4.2. 無韻詩 (blank verse)		138
4.3. 散文		139
5. Shakespeare の文法		140
5.1. 二人称代名詞 you と thou		140
5.2. 三人称単数現在形 (三単現) の -s と -th		143
5.3. 助動詞 do		145
5.4. 進行形		147
5.5. 2 通りの比較法と二重比較		148
5.6. 談話標識 (discourse marker)		150
5.6.1. I say		150
5.6.2. I think		151
6. 挨拶表現		152
7. まとめ		154

8. Shakespeare の作品一覧	154
ほっと一息 Tea Time (初期近代英語編 1)	
ハリーポッターにも Shakespeare が出てくる?	156
ほっと一息 Tea Time (初期近代英語編 2)	
doubt や debt の b はなぜ読まれないのだろうか	157
Classroom Activity ㉠	159
Classroom Activity ㉡	160

第 IV 部 後期近代英語 (1700-1900)

第 7 章 後期近代英語

.....	山本史歩子	162
1. はじめに		162
2. 英語の標準化		163
3. 規範文法		165
4. 規範文法家たち		166
5. 後期近代英語の特徴		170
5.1. 関係代名詞		170
5.2. 否定における助動詞 DO		174
5.3. 多重否定		175
5.4. 進行形と進行形の受動態		176
5.5. Be going to の発達		178
5.6. その他の特徴		179
ほっと一息 Tea Time (後期近代英語編 1) 言語と社会		181
6. 辞書の発達		182
7. おわりに		184
ほっと一息 Tea Time (後期近代英語編 2) 英語になった外来語		185

第 8 章 Victorian Novels の文体と文法

—Wilkie Collins と Conan Doyle を中心に—

.....	秋元実治	186
1. はじめに		186
2. Wilkie Collins と Conan Doyle について		186

2.1. Wilkie Collins (1824-1889)	186
2.2. Conan Doyle (1859-1930)	187
3. 先行研究	188
4. 分析例	188
4.1. 挿入詞 (Parenthetical)	188
4.2. Pray vs. please およびその異形	191
4.3. 合成述語構文	192
4.4. Be going to とその関連構文	195
4.5. Get-passive	197
4.6. 動詞+補文	198
4.6.1. Decline	198
4.6.2. Disguise	198
4.6.3. Forbear	199
4.6.4. Meditate	199
4.6.5. Object	199
4.6.6. Prefer	199
4.6.7. Propose	200
4.7. 仮定法	200
4.8. Be accustomed to NP/-ing/Verb	202
4.9. There is no ~ing 構文	203
5. おわりに	204
ほっと一息 Tea Time (後期近代英語編)	
アフタヌーンティー (afternoon tea) とハイティー (high tea)	204
Classroom Activity ㉠	206
Classroom Activity ㉡	207

第 V 部 現代英語 (1900-)

第 9 章 現代英語とグローバル化

..... 川端朋広	210
1. はじめに	210
2. 現代英語における語法・文法上の変化	211
2.1. 目につきやすい変化	212
2.2. 新語法とそれに対する抵抗感	217
2.3. 目につきにくい体系的変化	220

2.4. インターネットの影響	223
2.5. 「変化」か「乱れ」か?	224
3. 発音とアクセントをめぐって	225
4. 世界語としての英語をめぐって：グローバル化と反グローバル化	227
4.1. 非英語圏における英語使用と「反」グローバル化	228
4.2. 英語圏における英語の強要とそれに対する反発	230
4.3. グローバル化時代の英語教育	231
5. おわりに	233
ほっと一息 Tea Time (現代英語編) 政治的に正しいおとぎ話?	234
あとがき	237
Classroom Activity 解答と解説	241
参考文献	249
索引	263
執筆者紹介	269